



1945年に、フェンダーアンプが初めて市場に紹介された頃は、トランジスターというものは、まだ実験段階にあり、集積回路などというものは、10年も後にならないと発明されませんでした。

今日では、ほとんどの楽器用アンプがトランジスターを使っており、指の先ほどのICチップが、かつてのばかでかいコンピューターにとって変わりました。

このようにエレクトロニクス技術が急速に発展しても、フェンダーアン

プの真空管回路はほとんど変更されることなく受け継がれ、ピックアップから聴衆へギターの音を伝える最高の方法として、愛用されています。何故こんなことが可能なのでしょうか。“魔術”とってはおかしいでしょうか。偶然なのかも知れません。しかし、明確なことは、今や伝説ともいえるフェンダーアンプの特徴ある独特のサウンドは、すでに発表された第一号機から発揮されていたということです。

